



サケは、なぜ育った川にもどれるの

二つの考え方があ

海で生活しているサケは、産卵の時期になると、自分の生まれ育った川へ、もどってきます。このように、自分が生まれ育った所へもどることを、回帰性といいます。サケやマスに、特によく見られます。広い海の中で、自分の生まれ育った川を、どうして見つけるのか、いろいろ研究されてきていますが、今は、次の二つの説が有力です。

太陽の位置で決めている

太陽の位置で、自分のいる場所を知ることを、「太陽コンパス」といいます。サケに太陽コンパスの能力があることは、あるていど、確かめられています。太陽コンパスは、広い広い海で、おおざっぱに、帰る方向を決めるのに使われているのでしょうか。

川のおいを、覚えてい

いちばん有力な説は、自分の生まれた川のおいを覚えていて、そのおいをたどって、もどってくるというものです。

サケの鼻のあなをふさぐと、もどってくる数の割合が少なくなる、という実験結果があります。また、生まれた川の下流がよごされていると、となりの川にのぼってくる、という報告もあります。

また、サケの脳波を調べた実験もあります。サケの水そうに、サケのふるさとの水を、ほんの少しただけで、サケの脳波に、はっきりした変化が現れたそうです。

地球は、北極をS極、南極をN極とした、大きな磁石といわれていますが、地磁気も、サケが生まれた川にもどるのに、関係があると考えられています。(監修・杉浦 宏)

